

先取り初詣東京 2024



2025 年 1 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

12 月 30 日に“先取り初詣”と称して東京都内の神社仏閣を巡ってきた。それは正月を迎える準備ができた神社や寺を大晦日の前日に参拝するもので、私の仲間内では 10 年ほど前からの恒例行事になっている。

■年末なのに初詣

私と友人とで“先取り初詣”という少し変わったイベントを始めたのは 2011 年の年末からになる。一応“初詣”とは称しているが、12 月 30 日という日程がミソで、あくまでも“先取り”である。

大晦日の前日はほとんどの神社や寺は正月の準備はできているが、参拝客はいない。それが翌日の夕方から大混雑になるので、混む前に行くことでより一層神聖な気持ちになるというのが、始めたきっかけだ。

実はこのイベントは歩き旅を兼ねており、目的地まで 30~40km を歩く。当初は都心を訪れていたが、成田山新勝寺や佐野厄除け大師など都心から離れて郊外に出ることが多くなっていたので、今年は久しぶりに都心を巡ることにした。

■明治神宮

今年も 12 月 30 日の早朝、私と友人たちは都内の駅に集合する。そして歩きはじめる。

まずは正月三が日の参拝者が日本で最も多い「明治神宮」を訪れる。10 年近く前にも明治神宮を先取り初詣で訪れているが、その時には参拝客はそんなにいなかったと記憶している。ところが本日は多くの参拝客が来ている。三が日ならばわかるが、大晦日の前日なのにこの人数はどういうことだ。

参拝客を見ると日本人よりも外国人が多く、半数以上は外国人といったところだろう。ここ数年はコロナの影響でインバウンドが少なかったが、昨年あたりから様子がだいぶ変わってきている。何しろ外国人観光客にとっては大晦日やその前日、あるいは年始でもあまり関係ない。



【明治神宮】

■浅草の浅草寺

浅草の「浅草寺」にやってくる。そして明らかに明治神宮よりもこちらの方が混雑している。明治神宮に比べて境内が狭いというのもあるが、もはや正月の三が日かと勘違いするくらい多くの参拝客でごった返している。

それはテレビのニュース映像で流されるような混雑の状況で、ここでも外国人観光客が非常に多い。

仲見世通りの売店で、店員に「すごく混んでいますね、買い物客の9割くらいが外国人ですか？」と聞くと、店員からは「9割5分は外国人ですね」という言葉が返ってくる。私の友人も驚いているが、私が「それでも5パーセントは日本人なのか」と言うと、友人は「確かに、この人出では5パーセントでも多いね」と言っている。



【仲見世から見た宝蔵門（仁王門）】

仲見世通りから本堂の観音堂にやってくる。線香をたく常香炉（じょうこうろ）の前ではさらに多くの人が集まっている。

私たちがそこで線香の煙にあたっていると、隣のおじさんが「暖かくていいでしょう」と声を掛けてくる。私は「そうですね」と言いながら、「日本人なので安心しましたよ」と返答すると、おじさんは「家がすぐ近くなので、温まりにきているのですよ」と言っている。

「本当に外国人が多いですね」などと世間話をしていると、おじさんが「実は私はこの寺の関係者で、せつかくの日本人なので特別に観音堂の内部に入りますか？」と聞いてくる。

私たちは一瞬顔を見合わせたが、「いいのですか？」と声を発し、首を縦に振る。

おじさんに連れられて観音堂の右隅の受付にやって来る。そして受付の人に挨拶をして私たちを招き入れてくれる。靴を脱いで畳敷の内陣に上がると、その中央には本尊を安置している御宮殿（ごくうでん）がある。それはまるで本堂内のお堂というべきもので、最も神聖な場所になるのだろう。本尊らしき観音像があるが、どの寺でも本尊は人の目に触れないようになっているので、「これは本尊の身代わりだよ」と、おじさんが説明してくれる。

「地下にはトイレもあるから使っていいよ」と言って、地下に案内される。おじさんは「坊さんの修行の一環でピカピカにしてあるから」というので、ご利益を期待してピカピカのトイレを借りて用をたす。

案内されるまま1階に登ると御宮殿の裏側に出て、裏観音と呼ばれる観音像がある。「これは普通では参拝できないよ」とおじさんから言われて、ありがたく参拝する。

全く予想していない事態で、先取り初詣のご利益かと思いながら浅草寺を後にする。

■目黒不動

次は目黒区の瀧泉寺、通称「目黒不動」を訪れる。先取り初詣は比較的大きな寺社仏閣を参拝することが多いが、私は大き過ぎず小さ過ぎずのサイズの神社や寺が好きで、そのサイズ感にぴったりなのが目黒不動というところだ。

ちょうど良いサイズという言葉がどこかの車のキャッチコピーに使われていることを思い出す。



【目黒不動】

そのちょうど良いサイズの目黒不動で気持ちよく参拝をする。さすがにこのサイズになると外国人の割合も減り、同時に日本人も減る。つまりようやく先取り初詣の雰囲気が出てくる。

小ぢんまりとはしているが、目黒不動は日本三大不動の一つで由緒正しい。関東で一番古い不動ということで、開かれたのは平安時代というから相当古い。

目黒といえば落語「目黒のサンマ」でも有名で、江戸時代にはこの一帯は殿様が狩りをするほどの山林だった。今では住宅密集地で、とても当時の様子を想像できない。

ちなみに日本三大不動の残り2つは、熊本の「木原不動」、千葉の「成田不動」、つまりそれは成田山新勝寺になる。

ついでに紹介しておく、東京都内には目黒があれば目白やその他の色もあって「五色不動」というのがある。それらは江戸城五方の方難除けや五街道の守護に当てられた。

具体的には、「目白不動」は豊島区高田の金乗院、「目青不動」は世田谷区太子堂の数学院、「目赤不動」は文京区の南谷寺になる。「目黄不動」はいろいろあって台東区三輪の永久寺、江戸川区平井の最勝寺、渋谷区の龍巖寺、三ノ輪の永久寺などと言われている。

■ 蛇窪神社

品川区にある「蛇窪（へびくぼ）神社」にやって来る。私はこの神社の存在さえもつい最近まで知らなかったが、年末にたまたまテレビの情報番組を見ていたら、2025年の干支は蛇なのでこの神社を紹介していた。



【蛇窪神社】

蛇窪神社は目黒不動よりも小さいが、何となく活気が感じられる。

氏神様といった小さな神社で、地元ボランティアらしき人たちが神社の正月の準備をしている。地元の人々に愛されているというのが肌で感じられる。そこに加えて来年の干支が蛇なので、より一層盛り上がっているのだろう。

境内には「蛇窪龍神社」という社もある。この社は2024年の干支の龍から翌年の干支の蛇へのバトンタッチという意味では実に年越しにマッチしている。これこそ先取り初詣にぴったりかもしれない。



【蛇窪龍神社】

「白蛇弁財天」という社もあって、弁財天なので社の脇に「白蛇清水」というお金を洗う場所もあって、そのやり方を示した図解まである。

白蛇の石像の頭を撫でる「撫で白蛇」という社もあり、白蛇だらけになっている。



【白蛇弁財天】



【撫で白蛇】

■後日談

本稿を執筆中の1月9日のテレビの情報番組で、この蛇窪神社の様子を伝えている。すると何ということか、この時（1月9日昼間）には、参拝客が多くて3時間待ちの行列になっているということだ。

私たちは12月30日に人出がパラパラで、もちろん待ち時間なしで参拝した。これぞ先取り初詣のご利益なのだろう。

■旅の記録

実施は2024年12月30日（土）、その行程を示す。本文の記述と参拝順番が異なるが、この記録の方が正しい。

8時に東急大井町線の中延駅に集合し、「蛇窪神社」を参拝する。

9時に戸越銀座商店街を散策、9時30分にファミレスで朝食、10時50分に「目黒不動尊」を参拝する。

目黒駅から電車に乗って原宿で下車し、11時40分に「明治神宮」を参拝する。

国立競技場の横を歩いて四谷三丁目の近くのファミレスで昼食、電車で移動し15時30分に浅草の「浅草寺」を参拝する。

勝どきまで電車で移動して打ち上げ、解散した。

費用については電車代、朝・昼食と打ち上げ費用、そして賽銭で約1万円になった。